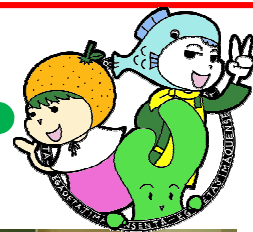


# 「えがお」通信

## つながる、広がる、ボランティアの輪



今年は参加者が多く33名！ありがとうございます。



みなさん、ネットの魅力について話し合いました



会場には沢山の「笑顔」が生まれました



実習生も参加させてもらいました



### 「えがおえたじま応援センター交流会」を開催しました！

9月9日（金）に、沖美ふれあいセンターにて、「えがおえたじま応援会員交流会」を開催しました。今年の交流会は講師に広島県社会福祉協議会 地域福祉課の藤岡忍さんをお招きし、県内の他地域で実施されているネット事業の事例を基に、しおかぜネットの原点は「おすそわけ」であることを再確認したり、しおかぜネットの魅力をどうやって広く住民へPRしていけば？ということに参加者の皆さんで話し合いました。これからも、皆さんの「えがお」を応援できるような活動を続け、ボランティアの輪を広げていきたいと思ひます。

「しおかぜ通信」は、皆さまからの社協会費や、赤い羽根共同募金によってつくられています。





# 江田島市社協に実習生がやってきました



今年は3つの大学から6人の学生が江田島市社協に実習生としてやってきました。8/18~9/15までの約1カ月間を実際に江田島市で生活して、福祉の専門職として必要なことや、住民の皆さんがどのように地域と関わりながら生活しているのかを、インタビューや地域の方々とのふれあいを通して、絆を深めながら様々なことを学びました。実習にご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。これからも福祉の専門職を目指す彼女たちの応援をよろしくお願いします。



川崎医療福祉大学 3年  
栗濱 優希

江田島市での実習は楽しく、充実した1カ月でした。少子高齢化という世の中だからこそ地域はとても大切になってきます。皆が笑顔になれる地域を目指して、これからも福祉の観点から頑張っていきたいです。江田島市の皆さんありがとうございました。



川崎医療福祉大学 3年  
築山 芽生

祖母が江田島町に住んでおり、第二の故郷と言っているほど江田島が大好きです。実習では人と人との繋がりや思いやりなど、ここでしか学べないことを沢山教わりました。また、江田島で見かけた時は気軽に声をかけてください。1カ月の間どうもありがとうございました。



川崎医療福祉大学 3年  
佐藤 由佳

1カ月の実習は本当にアツという間でした。皆さんの郷土を愛する気持ちを感じながら楽しく充実した毎日だったからだと思います。地域の皆さんの笑顔を支える専門職を目指し、これからも頑張ります。たくさんの優しさをありがとうございました。



川崎医療福祉大学 3年  
吉井 実穂

自然の美しさ、人の優しさを深く感じる1カ月となり、一生忘れない貴重な体験をすることができました。それは全て皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。必ずまた江田島市を訪れるので、見かけたら声をかけてください。



広島文化学園大学 3年  
加賀見 静

私は生まれてからずっと江田島市に住んでいますが、今回の実習で、今まで知らなかったことを学べて、江田島市のことがもっと好きになりました。皆さんがとても優しくて1カ月が楽しかったです。今回勉強させていただいたことを今後に生かしていきたいです。ありがとうございました。



関西福祉大学 4年  
藤本 美貴

私は実家が江田島市なのですが、今回の実習を通して、色々な地域、様々な人々との触れ合いから、知らなかった故郷の魅力を知り、ますます江田島に帰ってきたくくなりました。沢山のことを教えてくださった皆さん、本当にありがとうございました。この実習を糧に、良い社会福祉士になって帰ってきたいです。

## 実習風景



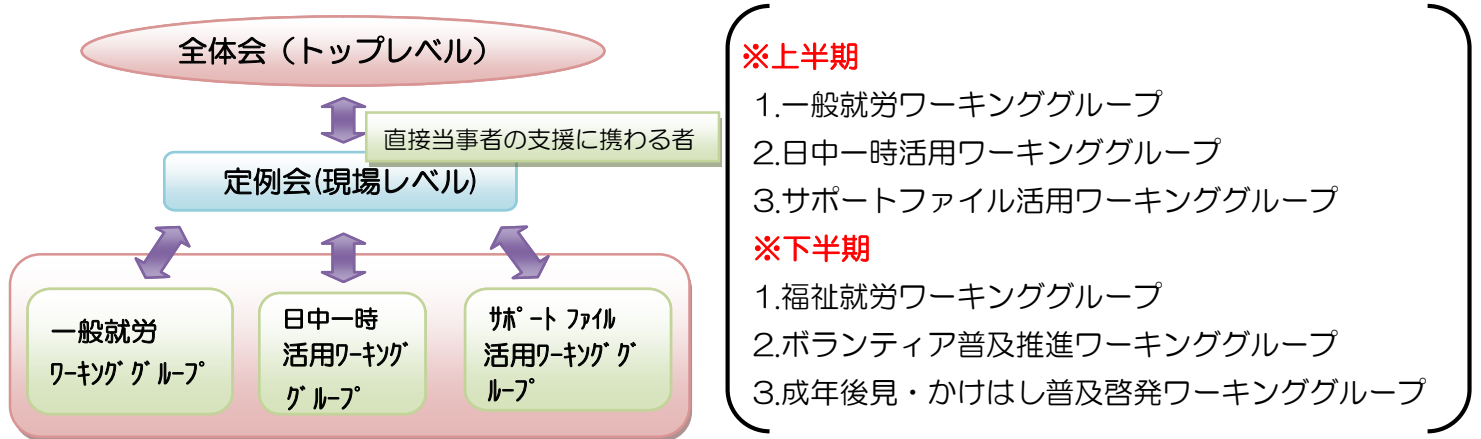


# 社会福祉法人 江田島市社会福祉協議会 江田島市障害者生活支援センターからのお知らせです！



## 江田島市地域自立支援協議会の活動について

地域自立支援協議会とは、障害のある人の暮らしをいろいろな立場の人が一緒に考える会議の事です。今回は、地域自立支援協議会の中で取り組んでいる各ワーキンググループについて説明します。今年度は、6テーマでワーキンググループを立ち上げ上半期・下半期に3テーマずつ活動を行っています。



### ※上半期

1. 一般就労ワーキンググループ
2. 日中一時活用ワーキンググループ
3. サポートファイル活用ワーキンググループ

### ※下半期

1. 福祉就労ワーキンググループ
2. ボランティア普及推進ワーキンググループ
3. 成年後見・かけはし普及啓発ワーキンググループ

### ワーキンググループの目的

各ワーキンググループでは、現状把握のためにアンケート等の調査を行いました。ご協力いただいた皆さまありがとうございました。

この調査結果をもとに、今後、地域自立支援協議会で課題を明確にして協議を行い取り組んでいきます。これからもこの会議の活動については、情報を発信していきます。

### ご存知ですか？

先月の9月10日から16日まで自殺予防週間でした。

日本の自殺者は平成10年以降、3万人を超えその後も高い水準が続いており、深刻な社会問題となっています。自殺予防に取り組んで大切な命を守りましょう。

### 悩んだ時には、

自殺予防 いのちの電話 (毎月10日)

☎0120-738-556 8:00~翌日8:00 (24時間・無料)

※上記の期間以外は下記の番号で相談を受けてもらえます。

広島いのちの電話 ☎082-221-4343 (年中無休)



## 10月の障害者生活支援センター予定表

日時	行事	開催場所
15日(土)10時~16時	ぴあサポートサロン	ゆうゆう(自立支援センターあおぞら)
22日(土)10時~13時	ピアトーク!	大柿老人福祉センター

参加を希望される方や、お問い合わせは下記までご連絡下さい。

### 江田島市障害者生活支援センター

〒737-2295 江田島市大柿町大原505 (江田島市役所大柿分庁舎2階)

電話 57-2215 ファックス 40-3573

E-mail: etajimasien@iris.ocn.ne.jp

# 被災地の現状と今後



## ～ボランティアは復旧支援から生活支援へと移行～

3月11日の震災から半年が経過した宮城県岩沼市では、これまでのボランティアの皆さんの支援もあって「泥かき」「瓦礫の撤去」などといった災害支援ニーズは終息に向かいつつあります。市内に3か所あった避難所(約600人が避難)も、全員が仮設住宅へ移ったことで閉所となり、被災地の生活は着実に復興へと向けて進んでいます。

そんな中、岩沼市社会福祉協議会では「岩沼市災害ボランティアセンター」を7月31日に閉所し、8月1日からは、被災者の生活支援を中心とした「岩沼市復興支援センタースマイル」を立ち上げ、「ふれあいいきいきサロン」の開催や、住民の交流イベント等を開催しています。



世界中からボランティアが駆け付け、沢山の「絆」が生まれました



みなさんが本当の「スマイル」を取り戻せるよう応援します

宮城県内にある他のボランティアセンターも次々と生活支援へと活動をシフトチェンジしており、災害で崩壊したコミュニティの再建に力を注いでいるようです。

しかし、まだまだ完全な復興への道のりは遠く、今の段階では津波で流された建物や車などの片付けが済んだだけで、まだ建物は建っておらず、職を失った方々の今後の生計の目途は依然として立っていないという状況です。

これからも支援の力がりますが、地元の力を育むような形での支援が求められていくと思います。この震災が風化しないよう、今後も継続して応援していきたいと思いますので、みなさんのご協力をお願いします。

宮城県災害・被災地社協復興支援ボランティアセンターHP  
<http://msv3151.c-bosai.jp/index.php>

### 10月 心配ごと相談所のご案内

《開設時間 午後1時～3時30分》

相談員の皆さんが、日常生活の悩みごとや心配ごとの相談に応じて解決に努めます。問題によっては関係機関の紹介もします。相談所は市内のどこでもご自由にご利用できます。

10月6日 (木)	10月13日 (木)	10月20日 (木)	10月27日 (木)
江田島市 農村環境改善センター	大柿公民館	江田島市役所 沖美支所	江田島公民館

## 江田島市社会福祉協議会 えがお えたじま 応援センター

〒737-2302

広島県江田島市能美町鹿川2060番地 (能美福祉センター内)

電話 (0823) 40-2210 fax (0823) 40-2502

